

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立鍋島小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

（1）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

（2）教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらか言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	87.5%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	77.4%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	86.9%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	85.2%	84.9%

「学校に行くのは楽しいと思う」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。「自分には、よいところがあると思う」の項目は、肯定的な回答をした児童は全国平均と同等の結果が出ています。将来の夢や目標といった具体的な将来像をえがいている児童は全国平均を下回っています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	7.8%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	20.3%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	28.9%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	28.1%	27.4%
「30分より少ない」	10.2%	12.9%
「全くしない」	3.9%	5.7%

家庭学習については、1時間以上の割合が57%で全国平均を若干上回っていますが、1時間未満の児童が4割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童も3.9%いました。

(2)改善に向けての取り組み

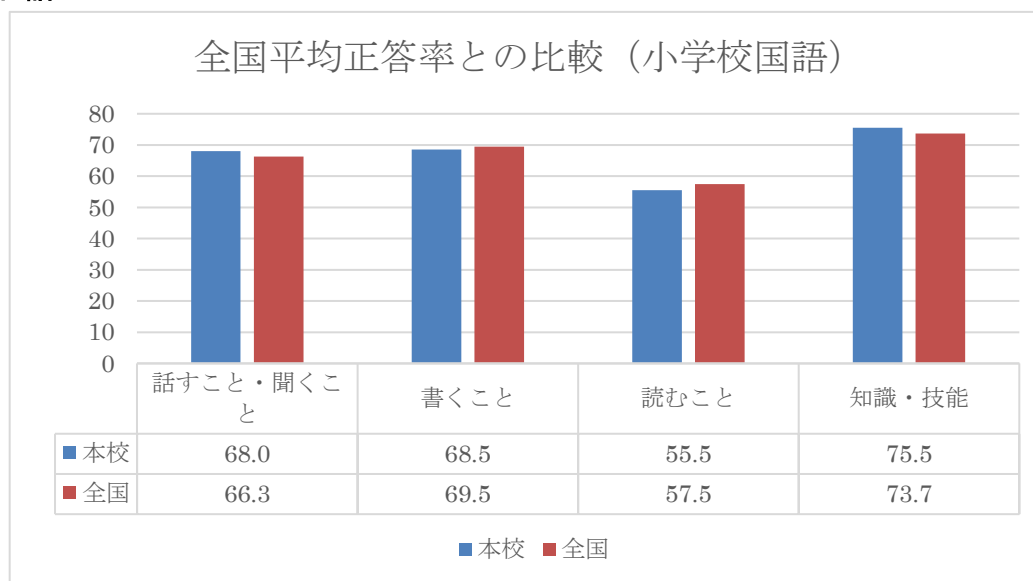
【学校では】

- 主体性を伸ばすための3つの力「自律」「尊重（自由の相互承認）」「創造」を育んでいきます。
「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、友達と協働で解決していく「鍋島小スタイル」の授業を行うことで、日々授業改善を行って授業づくりをしています。
- 「自律」である「自分で考え、自分で決めて、自分で働き出す力」を育むため、児童に出番と役割を与え、承認することで責任感と自信を育て、児童の良さを伸ばす「開発的生徒指導」を行っています。
- 「家庭学習レベルアップ週間」などの取組を活用し、家庭学習が習慣化するように指導をしています。

【ご家庭では】

- 「尊重」の力を育むためには、「子どもの可能性を信じ、ありのままの夢を尊重する」ことが重要です。子どもの気持ちに寄り添い「応援しているよ」というメッセージを繰り返し伝え、日常会話の中で夢や目標について、お子さんと語り合う時間をお持ちください。
- 「鍋島小家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、学習の進め方を参考に、各学年で設定した目標を達成できるように励ましてください。

2 国 語



(1) 結 果

ほぼ全国平均と同水準の結果でした。「話すこと・聞くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、「読むこと」は全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容をとらえることができるかどうかみる問題」で、全国平均を上回りました。普段から、国語の学習で、自ら立てた問いの解決のために、少人数での話し合いを継続的に取り組んでいる成果が表れていると考えられます。また、「知識・技能」が全国平均正答率を1.7ポイント上回りました。継続的に取り組んできた辞書引き活動や家庭学習で行っている漢字練習や音読の成果だと考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。特に、条件に沿った記述の正答率は、全国平均正答率を下回っており、苦手にしている児童が多くいます。内容に関する条件や記述に関する条件、また条件の数など、日々の授業の中で、様々な条件に沿いながら書く活動を仕組んでいくことが重要であると捉えています。

3) 学力向上のための取り組み

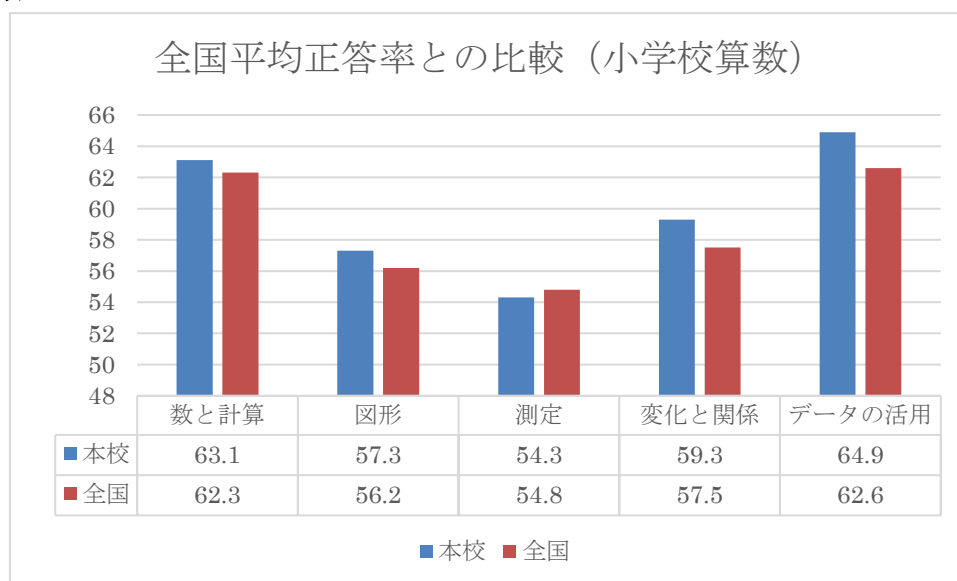
【学校では】

- 問題文を読むときには、印付けを習慣化できるよう継続して指導します。
- 単元ごとに身に付けさせたい力を明確にし、ゴールの言語活動へ向かって、思考操作を行い、自ら立てた「問い」を解決していくことで、児童が主体的に学べるようにします。
- 「問い」の解決のために、友達との交流を行う際には、根拠となる言葉や文章を明らかにしながら、深く学んでいけるようにします。
- 与えられた条件に合わせて文章を書いたり、日々の授業の振り返りを書いたりする活動に取り組んでいます。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図をとらえることにもつながります。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語に触れることで、「読む」を楽しめるようになります。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣を付ける上でおすすめです。

3 算数



(1) 結果

ほぼ全国平均と同水準の結果でした。「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」の領域で全国平均を上回っています。しかし、「測定」の領域では全国平均を下回っています。また、記述式での正答率は、全国平均より、2.4ポイント高いですが、37.4%にとどまっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「異分母の分数の加法の計算をできるかどうかをみる問題」や、「伴って変わる二つの数量関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる問題」の正答率が全国平均を上回っていました。「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数にいくつ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題」の正答率が全国平均を下回っていました。今後、分数のもつ意味を整理し操作活動等を通してその仕組みについて理解を深めることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

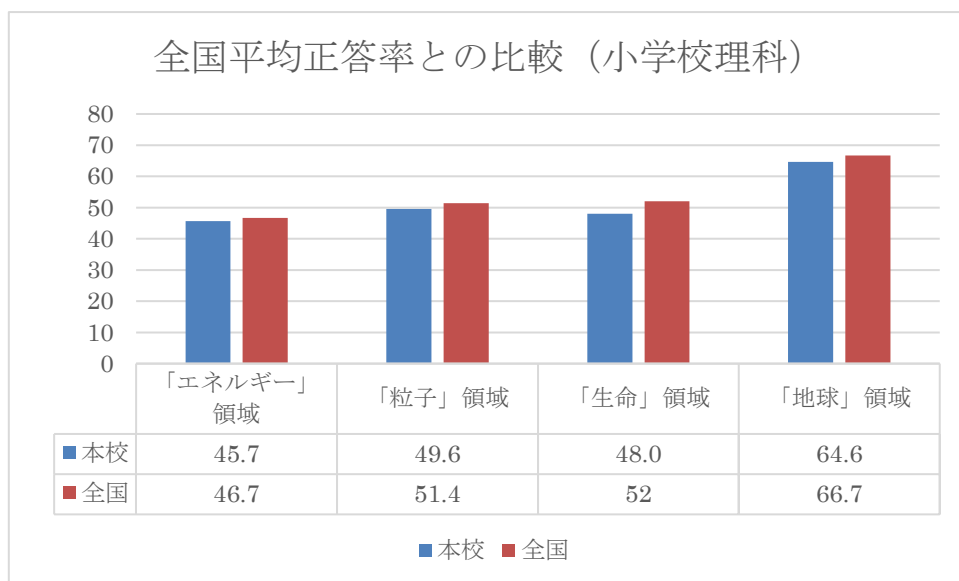
【学校では】

- 問題文のキーワードや表、グラフの数値など、問題解決に必要な数や言葉に印を付けるだけでなく、必要な数や言葉を書き込んだりすることで、文章を正しく理解できるように指導します。
- 自分の考えを図や式、言葉を使って表し、友達に説明する「友だちタイム」を設定し、論理的思考力の向上に努めます。
- 单元ごとの学習計画表を活用し、自己評価を行うことで主体的な取り組みを目指します。

【ご家庭では】

- 計算ドリルや宿題プリントへの取組から、お子さんの理解度を知ることができます。印付けができていないか、大事な条件を理解しているか等の確認も併せてお願いします。
- 保護者の方からの称賛や励ましの言葉はお子さんの学習意欲向上につながりますので、宿題やドリルやプリント類など、ぜひ定期的に目を通して、言葉掛けをお願いします。
- 買い物や料理、ドライブなど、身の回りには算数の学習内容と関連している事例がたくさんあります。学んだことを日常生活で活用することで、さらに理解を深めることができます。お子さんと一緒に問題を考え、それを解決してみる機会をつくってみてください。どのように答えを導き出したのか、お子さんが説明することができるとすばらしいです。

4 理科



(1) 結果

全国平均より低い結果でした。すべての領域で全国平均より低くなっています。記述式での正答率は、全国よりも1.3ポイント高く、46.5ポイントでした。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「エネルギー」の領域の「電磁石の磁力を高めるため、コイルの巻数のかえ方を答える問題」の正答率が全国平均を3.9ポイント上回っていました。また、「粒子」の領域の「まとめからその根拠を実験の結果を基にして書く問題」の正答率も全国平均を上回っていました。「生命」の領域で「発芽するのに必要な条件について実験の条件を制御した解決方法を選ぶ問題」の正答率が全国平均を下回っていました。今後、自然の事象から問題を見つけ、予想や仮説を立て、観察・実験を通じて考察し、表現することが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結び付けると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しています。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。